

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価	
学校名	佐賀市立金泉中学校
1 前年度 評価結果の概要	保護者アンケートから、おおむね良好な結果を得ることができた。生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組むために、キャリア教育の一環として「働く人に学ぶ会」、「先輩に学ぶ会」、「職場体験活動」などを行っている。さらに地域との連携を見据えて取り組んでいく。 業務改善・教職員の働き方改革の推進については、時間外在校等時間の平均時間や月平均45時間以上の教職員の割合がどちらも昨年度より減少しており、少しずつではあるが多忙化解消ができつつある。さらに、学校行事の精選などに取り組んでいく。 いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実については、開発的生徒指導の強化を図り、生徒の自己肯定感をもち、正義感を育みながらいじめを許さない環境を作っている。今後も、道徳の授業や短学活の時間の指導で、命や仲間を大切にする気持ちをさらに高めていきたい。
2 学校教育目標	元気あふれる学校 ～志をもち 夢をかなえる学校～

3 本年度の重点目標	①社会に開かれた教育課程の実現 ②雄飛学園及び学校運営協議会制度を活かした小中連携育の推進 ③安心・安全な学校づくり
------------	--

4 重点取組内容・成果指標					中間評価	5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○(学校独自重点取組)単元計画・振り返りシートを活用した金泉授業の実践	○授業毎の振り返りと自己調整力の向上により、主体的に学びに向かう生徒が増え、各教科試験の正答率を前年試験を3点上回る。 ○学校評価アンケートで、「授業の振り返りを通して、どんな学習が必要かが分かり、家庭学習や復習をすることができた。」「各教科のどの観点の力がついているか、また課題であるかが自分で行った。」という問いに対して肯定的に回答した生徒90%以上を目指す。	・単元課題(単元を貫く問い)や授業の学習内容・めあてを提示し、振り返り記入欄を設けた単元計画・振り返りシートを各教科各単元で作成し、単元学習後に3観点の評価を行う。 ・単元計画・振り返りシートを活用した金泉授業を各学年で実施する。 ・ハフォーメントとその評価についての情報交換会を校内研究会で行う。	B	・学校評価アンケートで、「授業の振り返りを通して、どんな学習が必要かが分かり、家庭学習や復習をすることができた。」「83%、「各教科のどの観点の力がついているか、また課題であるかが自分で行った。」。92%の生徒が肯定的に回答している。 ・第3観点の評価についての情報交換会を校内研究会で行った。	B	・第2回学校評価アンケートで、「授業の振り返りを通して、どんな学習が必要かが分かり、家庭学習や復習をすることができた。」「81.5%、「各教科のどの観点の力がついているか、また課題であるかが自分で行った。」。88.7%の生徒が肯定的に回答している。 ・第2テスト(9月)において比較、1年生数学41.1、2年生数学37.7と前年を3点上回っており、他教科はやや増加であった。3年生はSAGAテストで県平均との差を縮めている。	A	・一人一人の学習課題に気づかせるなど、課題意識をもたせた授業実践を今後も続けてほしい。 ・家庭学習の状況を指標に入れたらどうか。	研究主任
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○◎学校評価アンケートで、「道徳の時間やお話タイムでは自分の行動を振り返って、自分の生き方を見つめなおしているか」という問いに対して肯定的に回答した生徒85%以上を目指す。	・道徳の時間を通して、命を大切にする心、思いやりと感謝の気持ちを育む心、規律やルールを守る心を養う授業を行う。 ・学校行事前後の道徳の時間において、活動を有意義にするための心を養う内容を取り扱う。また、活動後に自分や他者を承認する場を設け、自他に目を向ける中で、多様なものの見方に触れ、心豊かな生き方の追求を目指す。	A	・「道徳の時間やお話タイムでは自分の行動を振り返って、自分の生き方を見つめなおしているか」では、肯定的に回答した生徒が96%であり目標を達成することができた。 ・学校行事の前後には、「いいこと探偵」を実施するなど他者を承認する雰囲気を作ることができている。	A	・「道徳の時間やお話タイムでは自分の行動を振り返って、自分の生き方を見つめなおしているか」では、肯定的に回答した生徒が94%であり目標を達成することができた。 ・学校行事において、心を養う内容「いいこと探偵」や「学年集会での承認」などの取り組みを通して、各学年・学級で他者を承認する雰囲気を作ることができている。	A	・自分を見つめ、他を認め合う学校の長年の取組が積み上がってきている。 ・道徳の時間以外でも教育活動全体での取り組みとなり、功を奏していると思われる。 ・自己肯定感を高めるためにもよく、達成率も高い数値になっている。低い生徒へのケアも大切だ。	道徳担当
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートで、「学校はいじめを許さない雰囲気作りに努めていると思うか」という問いに対して肯定的に回答する生徒、保護者ともに100%以上を目指す。 ○毎月の生活アンケートで、「楽しい学校生活が送れた」と答える生徒90%以上を目指す。	・生徒集会での「いじめ0宣言」の復唱、全校朝会やお話タイムの実施でいじめを許さない環境を作り、毎月の生活アンケートの実施で早期認知・対応を行う。 ・開発的生徒指導の強化を図り、生徒一人ひとりに出番を与えとともに自信をもたせ、正義感を育みながらいじめが起きない環境づくりを行う。	B	・「学校はいじめを許さない雰囲気作りに努めていると思うか」という問いに対して生徒96%が肯定的に回答している。毎月の生活アンケートにおいて、嫌な思いをした生徒がいれば早急に聞き取りを行った。また、加害生徒にも話を聞き、指導し、教員間の情報共有も迅速に行っている。 ・生活アンケートで、「楽しい学校生活が送れた」と答えた生徒99%(上期平均)。	B	・「学校はいじめを許さない雰囲気作りに努めていると思うか」という問いに対して生徒94%保護者93%が肯定的に回答している。毎月の生活アンケートにおいて、嫌な思いをした生徒が、いけば早急に聞き取りを行った。 ・生活アンケートで、「楽しい学校生活が送れた」と答えた生徒98%(下期平均)。	A	・いじめの早期発見、早期対応に向けた学校の取組が迅速で、見逃さない強い姿勢を感じる。 ・肯定的ではない生徒への気配りをお願いしたい。 ・職員で情報共有し、生徒を大切に思う雰囲気がとても良い。	生徒指導主事
	●◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●学校評価アンケートで、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●◎学校評価アンケートで、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・学校行事、係活動、生徒会活動等あらゆる場面で、開発的生徒指導の強化を図り、生徒一人ひとりに出番・役割、承認を行う。	B	・学校評価アンケートで、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的な回答をした児童生徒94%。 ・学校評価アンケートで、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒74%。発達段階に応じた進路指導の充実に向けていく。	B	・学校評価アンケートで、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的な回答をした児童生徒94%であった。 ・学校評価アンケートで、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%であった。 ・発達段階に応じた進路指導として、1年生では「働く人に学ぶ」、2年生では「先輩に学ぶ」、3年生では「未来の自分に学ぶ(卒業生会)」を行った。	A	・将来の夢や目標がまだ定まっていない生徒も多いと思われる。この時期に広い視野に立った新しい知見に出会うことは大切である。 ・「触れる、知った」だけでも効果は大だと思う。 ・生徒たちには、たくさんの失敗経験を次に生かせるようになってほしい。	学年主任
	○人権・同和教育の推進	○学校評価アンケートで、「差別をしない、許さない事の大切さ」に気づくことができたか」という問いに対して肯定的に回答した生徒85%以上を目指す。	・年間を通した活動や人権週間の取り組み等で、人権意識を高める。 ・部落問題学習の実施や人権・同和教育に関する職員研修の充実(確実な実施)を図る。	A	・学校評価アンケートで「差別をしない・許さない」の問いに肯定的に回答した生徒は100%だった。また、佐賀市人権・同和教育実践交流会にて社会科、道徳の授業を提案して、職員の研修を深めることができた。	A	・学校評価アンケートで「差別をしない・許さない」の問いに肯定的な意見の達成率は98.8%であった。 ・教職員一人1つの研修を目標に人権研修の推進に努め、。また、夏季休業中に小・中学校連携した職員研修を実施した。 ・人権週間にはいじめ防止標語や人権啓発のラジオ番組を放送し、人権意識を育んだ。 ・社会科の身分制度学習では、学年の道徳と連携して生徒や教職員が学べる人権学習ができた。生徒の感想からも差別を嫌う「差別をしない」という言葉が多くあった。 ・第2回学校評価アンケートで、「健康に良い食事をしている」という問いに対して肯定的に回答する生徒95%。「朝食をとって登校している」という問いに対して肯定的に回答する生徒92%。 ・11月食育月間で栄養士による講話、保健だよりによる食生活の改善への啓発を予定している。	A	・人権意識を高くもって成長していってほしいと思う。	人権・同和教育担当
	●健康・体づくり	○安全に関する資質・能力の育成	○学校評価アンケートで、「避難訓練、安全指導教室、薬物乱用防止教室により、命を大切にするという意識が高まったか」という問いに対して肯定的に回答する生徒90%以上を目指す。 ○生徒の生活事故・交通事故の発生割合が前年度以下を目指す。	・命の大切さを実感できるよう外部機関を活用した性に関する指導、食育教室や薬物乱用教室を開催する。また、より生徒の理解を深めるために、保健だより等の各種通信において講演等の内容を家庭に周知する。 ・生徒の危険回避能力や危険予知能力を向上させるとともに、日頃からの指導や地域・家庭・関係機関との連携を図る。	A	・「避難訓練、安全指導教室、薬物乱用防止教室により、命を大切にするという意識が高まったか」という問いに対して肯定的に回答する生徒99%。 ・生徒の生活事故・交通事故の上期発生R5は6件、R6は5件である。交通事故3件(内2件は自損事故) ・引き続き、日頃からの指導や地域・家庭・関係機関との連携を図る。	A	・「避難訓練、安全指導教室、薬物乱用防止教室により、命を大切にするという意識が高まったか」という問いに対して肯定的に回答する生徒97.6%。 ・生徒の生活事故・交通事故の1月までR5は17件、R6は11件である。交通事故6件(内3件は自損事故) ・今年度は大雨による引渡訓練を実施した。	A	・年間通して安全指導を継続している。年々大きくならない災害に対する訓練なども実施しており、大切なことだと思う。 ・災害時を想定した学習、防災訓練への参加も検討したい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○上期、下期で時間外在校等時間の平均が前年度以下を目指す。	・毎週水曜日の定時退勤日の徹底を行う。 ・毎日の業務記録票記入による勤務実態把握と分析を行う。 ・部活動計画の提出、確認により平日2時間、週の2日を休業日にすることを徹底する。	B	・「定時退勤日において、努めて定時での退勤を心がけている」37%。時間外在校時間R5上期月平均44.4時間に比べR6上期月平均は49.9時間と増加している。 ・休業日を設定した部活動計画の提出は徹底できている。	B	・「定時退勤日において、努めて定時での退勤を心がけている」63.2%。時間外在校時間R5下期月平均41.5時間に比べR6下期平均は47.0時間と増加している。 ・部活動の指導において適宜活動停止日を設け、負担の軽減に努めることができている」100%。	B	・時間外業務の軽減、部活動指導負担の軽減に努めていることが評価できる。 ・在校時間は増えているので、その要因を考えたと次の策が浮かぶと思われる。	教頭
	○業務改善・教職員の働き方改革の推進	○学校評価アンケートで「学校行事等の精選および、職員の多忙化の解消ができたか」という問いに対して肯定的に回答した教職員80%以上を目指す。	・学校行事について、内容の精選を踏まえて提案し、反省点と改善点を記録していく。 ・夏季休業中に各担当同時作業としてサーバー内の整理を行い、職員間でのサーバーの情報共有を促進する。	C	・「学校行事等の精選および、職員の多忙化の解消ができている」32%の職員が肯定的。学校行事毎に反省点と改善点を記録して、またサーバー内のデータの整理を行っていく。	C	・第2回学校評価アンケートでは「学校行事等の精選および、職員の多忙化の解消ができている」57.9%の職員が肯定的に回答し、増加している。	B	・忙しい中にも、多忙化解消が少しでもできるように努力していることがよくわかる。	教頭
●特別支援教育	○特別支援教育の充実ため、特別支援教育の視点を入れた教室環境に取り組む。	○学校評価アンケートで「授業が受けやすい環境である」という問いに対して肯定的に回答した生徒80%以上を目指す。	・ユニバーサルデザイン教育の視点に立った学級経営・各教科授業・教室環境整備を行う。 ・Q-Uの分析、発達障壁等についての理解を図るため、研修を入れながら職員のスキルアップを図る。 ・関係機関(児童養護施設、児童相談所、医療機関、法務少年支援センター)及び関係者との連携を強化し、支援体制の充実を図る。	A	・「授業が受けやすい環境である」という問いに対して肯定的に回答した生徒100%。「教室の環境について、ユニバーサルデザインの視点に立って整備できている」職員84% ・Q-Uを年間3回実施して分析、職員研修の中で生徒、学級への対応を検討している。	A	・「授業が受けやすい環境である」という問いに対して肯定的に回答した生徒97%。「教室の環境について、ユニバーサルデザインの視点に立って整備できている」職員89.4% ・Q-Uを年間3回実施して分析、職員研修の中で生徒への対応を検討して、全体で共通理解を図っている。	A	・特別支援教育に対する配慮が十分なされており、全体で共通理解が図られていることもとても良い。	特別支援コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域連携	○学校運営協議会をいかした地域との連携の充実	○学校評価アンケートで「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思う」という問いに肯定的な回答をする生徒80%以上を目指す。	・生徒が地域行事に積極的に参加できるように、学校運営協議会の中で情報を共有する。 ・生徒のボランティア活動に対する意識を高めるために、保護者・地域の方との連携を図る。 ・地域の方をゲストティーチャーとして招聘したり、職場体験活動で事業所等との交流を行う。	A	・「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思う」に肯定的な回答をした生徒87%。 ・金立小校区でグリーンボランティアを開催した。生徒が参加して、ゴミの分別や集約を保護者や地域の方と協力しながら行った。11月には久保泉小校区で予定している運営協議会の協力を得て、校区内にある事業所を追加、2年生の職場体験学習を実施した。	A	・「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思う」に肯定的な回答をした生徒86.3%。 ・年間2回グリーンボランティアを開催した。前回よりも多くの生徒が参加して、ゴミの分別や集約を保護者や地域の方と協力しながら行った。 ・今年度は運営協議会の協力を得て、校区内にある事業所を追加、2年生の職場体験学習を実施した。また、避難訓練の際に、防災に関して体験談を話して頂いた。	A	・地域との連携を通して、学習がより充実した内容になっている。 ・地域の祭りや行事、子ども会活動にも積極的に参加し、地域を盛り上げてほしい。子ども会やジュニアリーダー研修は自己研鑽の場です。 ・年間スケジュールを示して、参加を検討できるようにしてはどうか。	教頭 教務主任
	○9か年を見通した小中連携の推進	○学校評価アンケートで、「子どもの育成に取り組んでいる」という問いに対して肯定的に回答した保護者80%以上を目指す。	・金立小・久保泉小・本校の雄飛学園教育「めざす15歳の春」を共有し、系統的な教育活動を展開する。 ・授業公開を年間3回以上設定し、共通課題・実践についての意見交換を行う。 ・雄飛学園教育合同研修会を開催し、各種研修会や児童生徒理解を深め、個に応じた具体的な指導の手立てについて協議する。 ・雄飛学園新入学説明会等を通し、中学生と小学校との交流を深め、いわゆる中1ギャップを軽減し、スムーズな移行を図る。	A	・学校は「雄飛学園」として小中連携して共通な指導を行い、9年間という期間で子どもの育成に取り組んでいると思えますかの問いに対して、保護者93%が肯定的に回答している。 ・夏季休業中を中心に、合同研修会を実施することができ、部会毎の情報交換ができている。 ・新入学説明会では、生徒会による学校紹介を行い、本校の魅力を示す計画がある。	A	・学校は「雄飛学園」として小中連携して共通な指導を行い、9年間という期間で子どもの育成に取り組んでいると思えますかの問いに対して、保護者92.7%が肯定的に回答している。 ・夏季休業中を中心に、合同研修会を実施することができ、部会毎に情報交換ができている。また、学期ごとに「まなざしカード」を利用して家庭での生活・学習習慣を見直す取り組みを行った。	A	・小中9か年を見通して、家庭での生活、学習習慣を見直す取り組みは、意義が大きい。	教頭 教務主任